

—大会報告—

大学を退職した心理言語学者が

中国語を勉強して思ったこと

玉岡賀津雄

（湖南大学・教授，名古屋大学・名誉教授）

#### 提要

本文站在一个退休后开始学习汉语的心理语言学者的视角，从语言习得有没有临界期？是否可以通过“情景”记忆汉语表达？以“自我为中心”的汉语学习更有效？汉语是通过“节能”进化而来的语言？汉语句子中时间词的位置和其他语言一样？学了汉语后，句子中的时间词位置的选择上是否也会和汉语母语者一样？当今中国的“网络社会”是否大大地改变了日常生活中的表达方式和用语习惯？这些问题展开。从对语言学习的感想出发，结合实证研究得出的结论，由浅入深地解释了心理语言学中对句子处理及加工的问题。最后，希望将来能够研发出更多满足当今网络时代迅速发展需求的相关汉语教材。

キーワード：心理言語学 省エネ化 兼語文 時制 ネット時代

#### 1. はじめに

65歳で名古屋大学を退職してから中国語を勉強し始めました。毎日まじめに勉強しているわけではないので、未だに初級レベルです。中国語は、英語と同じ主語・動詞・目的語(SVO)の語順だといわれますが、言語的に英語とはかなり異なる特性を持っていると思いました。また、中国語を学ぶうちに、中国語が長い歴史のなかで、無駄をそぎ落とした極めて「省エネ化」された言語だと感じました。実際、木簡や碑碣などは貴重な資源ですので、短く簡潔に豊富な内容を記述しなくてはなりません。経済的な面からも中国語を省エネ化する必要があったはずです。この講演では、私が中国語を学びな

がら思ったことを、心理言語学の観点から徒然なるままに語らせていただきます。

### 1. 言語の獲得には年齢的な限界があるのかなあ。

中国語の声調(tones)は「強烈」でした。エスキモー(イヌイット)語には、声調があると聞いていましたが、まさかそのような言語を学ぶことになるとは思いませんでした。中国語は声調で意味を区別します。それじゃ、どうやって歌うのだろうって素朴に思いました。声調でメロディーが決まってしまうのではないかと思いました。…が、それは心配することはなく、歌は声調を逸脱してもよいらしいです。

生まれてからしばらくは、乳児はどんな音でも聞き分けることができます。日本人の乳児でも、はじめは/r/と/l/を聞き分けられるのです。それが、1年足らずで、日本語の言語環境で必要な音だけを残して、他の音は聞こえなくなります。Li & Thompson(1977)は17名の普通語(中国語標準語)を日常的に話す中国人の乳幼児を調査しました。その結果、乳幼児の自然習得では、声調は極めて早い段階で、しかも短い期間で習得されることがわかりました。声調が音節の分節(segmental)よりも早く習得されたのです。また、第4声(falling tones)は、第2声(rising tones)および第3声(dipping tones)よりも早く習得されたそうです。重要なのは、声調の習得が分節よりも早かったという点です。

中国語の音節(漢字)には区切りがなく、流れるように発音されます。そのため、乳幼児が語の単位を知覚するには、音節で分けて語を理解する必要があります。一見すると音節の‘分節化(segmentation)’ができるようになってから、それに声調を付けるのではないかと思われれます。実際、日本人の中国語学習者は、漢字を見て理解する傾向があるので、音節(漢字)が先で、声調が後になるでしょう。しかし、乳幼児の自然習得では声調が先です。これは、声調がより基本的な‘韻律情報(prosodic information)’だからではないかと思えます。それなら、乳幼児のように中国語環境に身を置くことで、自然に声調などの韻律の感覚が身に付くのかなあ?…と思いました。が、そ

う簡単ではなさそうです。

もともと記憶力がよいほうではないのに、シニア(高齢者)の仲間入りをしてから中国語を学ぶのは難題だと感じます。やはり言語習得には‘臨界期(critical period)’があるのでしょうか。Lenneberg(1967)は、言語の獲得には年齢的な限界があると提唱しています。これは、人間が乳児期から思春期までの期間を過ぎると、母語話者のレベルで言語を獲得することができなくなるという主張です。選挙権ではないので、前もって年齢が決められると外国語を学習する意欲がなくなってしまいます。

ただ、ここでいう臨界期は、第1言語(母語)レベルの話です。外国語として習得することができないというわけではないのです。ここで、言語の「獲得」と「習得」を区別していることに注意してください。自然に言語を身に付けるのは「獲得」、学習して身に付けるのは「習得」です。外国語は習得だと考えれば、臨界期はないといえるでしょう。母語話者のようなきれいな発音で、文法的な誤りもなく話すことができなくても、コミュニケーションの道具として十分に機能するくらいの言語習得は可能だと思います。やや不自然な日本語を話す外国人でも、日本の社会・文化・歴史の知識が並外れて優れている人もいます。

まず、中国語を学習するのに、乳幼児に返ったつもりで、Little Foxが作成した YouTube の中国人の子供用「声調歌」を聞くことにしました。幼児のための歌なので、旋律が簡単で印象に残り易く、なじめます。それと、無料の外国語アプリの Duolingo を iPhone にインストールして、毎日 30 分くらい勉強するように努めています。このアプリは、中国語ばかりでなく、さまざまな言語を学習できるようになっています。ドリル形式で、しかも世界中のユーザーと競争してランキングを競えるので、ゲーム感覚で楽しむことができます。これだと、わずかな休憩中でも中国語を勉強できるので便利です。Duolingo で学んで、いざ初級レベルの私が中国人と話してみると、声調が正しく発音できていないようで、「済みません。わかりません。」と日本語で返されました。Duolingo には音声認識が組み込まれているのですが、あまり感度がよくないようで、適当に発音

しても正解になってしまいます。やはり中国語の発音を習得するには、中国語母語話者の発音を目の前で聞くのがよさそうですね。Duolingoでの中国語の学習は、今のところ「シニアのポケ防止」には役立っているのかなって思っています。

さて、The Third Ear: You Can Learn Any Languageの著者である心理学者のLonsdale(2006)の表現を借りると、理解できなくても、鳥のさえずりのようにBGMとして中国語を聞き流すことで、「脳を音に浸す」のだそうです。それにより、中国語の自然な発話の速度や声調などの韻律が習得できるそうです。そこで、できるだけ中国語環境を作るようにしました。iPhoneにmyTuner Radioをインストールしました。これで、中国のいろいろなラジオ局が選べるばかりか、ニュース専門、音楽専門など分野別のチャンネルまで選べます。YouTubeで中国語のドラマやバラエティ番組を見るのもよいと思います。特に、bilibiliは中国語の宝庫です。適当に流しておくだけでいろいろな中国語を聞くことができます。最近、ユーチューバーという職業があり、けっこう評判がいいですね。「ヤンチャンCH」「李姉妹 ch」「チャイナ娘くまちゃん」「ゆうきの中国語」などで、中国の社会・文化の紹介や中国語の解説の動画をアップしてくれています。楽しく学べて、とても参考になります。ただ、自然に中国語が流れる環境を作ることで、どのくらいの学習効果があるかは不明です。そんなに簡単にはいかないよね…って思います。

### 3. ‘状況’を知ることで表現が覚えられるみたいです。

私は中国に住んだことがありません。そのため中国語を聞く機会が少ないので残念です。名古屋大学では、私の指導した大学院生の7割が中国からの留学生でした。おかげで、たまに自然な中国語を聞くことがあります。中国からの学術訪問の先生に、“老师，请问”と言うのを耳にしました。それまでに“请问”を「済みません」と覚えていました。しかし、この表現には「先生にお聞きしたいことがあるので、聞いてもよろしいでしょうか。」という意味が含まれています。この表現の次に、質問がくることが期待されます。この短い表現を聞いて、聞き手は、この学生がなにかわからないことが

あるのだと推測します。こういう発話の流れのなかで、会話が続いていくのですね。

中国人の会話を聞いていると、いろいろな‘状況依存的(situation dependent)’な表現に気づきます。“对”は「そうです」という意味だと学びます。“你说的对。(その通りだね。)”と言いますね。また，“对对对”と3回言うのをよく聞きます。これは、日本語でもよく「そうそう」と2回繰り返して言いますね。繰り返すことで、とても納得したというイメージが伝わります。中国人日本語学習者が「はいはいはい」と3回言うのを聞きますが、これは中国語の影響かもしれません。また、「急いで」と言う時に、“快”を使います。“快”も“快快快”と3回繰り返して言うと、催促する感じがでます。

“我来”は、「私が来る」のではなく、「私がやりますよ」という意味です。これも、“我来我来”と2回言うことが多いようです。2音節で、しかも主語と動詞の文になっているので、2回重ねることで心地よいリズム感が得られるのでしょうか。英語のAll rightに聞こえるので、覚えやすいです。また、「(今日は)私が奢るよ」と言う場合も、“我来我来”です。これも、レストランで、私の指導生が使っているのを聞いて、理解しました。こういう表現は、実際の状況をともなっていないと、理解できない表現だと思います。

また、“可以”は、誰かの許可で可能になる場合や主観的にしてもよいと判断できる場合に使う助動詞です。後者の意味で、中国人は「いいよ」と言う時に、“可以可以”と2回重ねて言うようです。日本語でも「いいよいいよ」って言いますね。この研究計画書はどうですか。“可以可以可以”と3回言うと、「とってもいいですよ。」って感じになります。“不是。”は「ちがう。」という意味です。これも、“不是不是”と2回言うと、強調されて「ちがうよ。」となります。さらに“不是不是不是”と3回言うと、否定がさらに強くなります。個人的な意見ですが、心地よいリズムパターンは、1音節(漢字1つ)であれば3回、2音節(漢字2つ)であれば2回という感じがします。でも、回数で表現の強さが変わりますので、これはあくまで使用状況の問題だろうと思います。これらは、日常生

活のなかで学習すると、自然に習得できそうです。

ちょっと気が付くのは、中国人が「行こう」と声をかける時は、「走吧」と言います。そろそろ話を切り上げて出発しようかという状況で、「走吧」と言うと、「さあ、そろそろ行こうよ。」というニュアンスになります。ただし、この表現は、ある予定があってそろそろ行かなくちゃ、という感じが込められています。これも状況に依存して使われますので、生活で実際に使われるのを聞くと、覚え易い表現だと思います。

また、「なんて言ったの。」と聞く時に、「你说什么？」と言いますが、中国語母語話者は早く発音するので、「你」の発音が軽くなり、聞こえないくらいです。日本語では、主語の「あなた」は言わないのが普通です。日本語は‘pro-drop 言語(pronoun-dropping language, 語用的・統語的に明瞭な場合は、ある特定の代名詞を言わない言語のこと)’なので、主語の代名詞をよく落とします。でも、中国語では、この場合は省略せずに“你”と言うことが多いようです。ただ、ほとんど無音化してしまうようです。少なくとも私にはそう聞こえます。まあ、相手が目の前にいれば強調する必要もありませんし、強く発音する必要もないでしょう。このような発音パターンは、自然な発話を聞いてみなくては、実感できないですね。

多くの表現が、特定の状況下で繰り返し使われます。私たちは、会話において言語以外のさまざまな‘情報’も同時に知覚しています。中国語の表現が発せられる際の特定の状況や人々の表情などを理解することで、表現の深い意味が感じ取れ、印象に残るので、覚え易くなります。実生活の特定の状況で表現を聞くと、使えるようになれるそうです。その意味で、交換留学や短期留学は、中国語を学ぶ貴重な機会なのだと思います。

#### 4. 中国語の学習は‘自己中’でいきましょう。

ベルリンを東西に分ける壁があった時代、バックパックを担いでドイツを1カ月ほど旅行したことがあります。列車で西ベルリンに入るには、東ドイツを通過しなくてはなりません。西ベルリンに入る前の駅で、乗客は列車から降ろされて、パスポートを確認

されます。高い木の壁が駅の両側にあり、その上から銃を持った兵士がこちらを見ていました。独特の緊張感のなかで、再び列車に乗り込み、西ベルリンに入りました。短期ビザで東ベルリンにも入りました。その後、ミュンヘンへ行き、ビアホール(ビール酒場)で、東ドイツの5マルク硬貨でビール代を支払おうとすると、驚かれました。その硬貨を見るために、隣のテーブルから人が集まってきました。当時、西ドイツで東ドイツの硬貨を持っていることは非常に珍しかったようです。もちろん、東ドイツの硬貨は西ドイツでは使えませんでした。

旅行前に2年間もドイツ語を勉強したのに、なにも言えないことを自覚しました。その時、ドイツで必要な表現とはなにかと考えました。それは、人間が生きていくのに必要な最低限の表現だと思います。つまり、自分の願望や欲求を表現することです。‘私’を中心として、「…が欲しい」「…をください」「…へ行きたい」などの基本的な表現を覚えることです。自己の欲求が満たされたところで、やっと‘あなた’について聞きます。‘第3者’については、ドイツ語で語ることはないだろうと思いましたが、それにそのような表現を覚える時間ありませんでした。

コミュニケーションの拡張パターンは、図1のように、“我”の

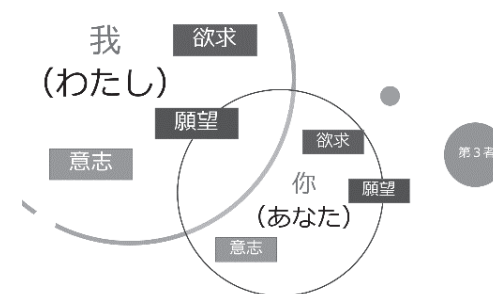


図1 自己中のコミュニケーション

自分を中心にして、“你”のあなた、そして第3者へと広がっていくのです。つまり‘自己中’なのです。この順序で言語を学習するのは効率的だと思います。私の場合は、ドイツ旅行でのサバイバルが目的でしたので学習効果は抜群でした。

中国語でも同じアプローチが有効だと思います。

さて、自己中のスタートである「…が欲しい」と中国語で言う時には、“想”と“要”を使います。よく紹介されることですが、“想”

と“要”の違いは、自己の欲求の強さだといわれます。教室で中国語を勉強しているだけでは、使用の区別が難しいのですが、実際の生活場面であれば、比較的わかり易くなると思います。“想”は軽い欲求を示します。私はスターバックスのカフェラテが大好きで、よく行きます。たとえば、漠然と“我想喝咖啡拿铁。(カフェラテが飲みたいなあ。)”だったら“想”と言います。

スターバックスに限定されているわけではないのですが、すぐ近くにスターバックスがあり、実はそこへ行きたいという状況であれば、スターバックスへ行きたいという間接的な意味を含んだ表現になります。これは、‘間接発話行為(indirect speech act)’です。そして、“附近有一家星巴克。(スターバックスが近くに一軒あるよね。)”となり、“(我们)去喝一杯吧。(一杯飲みに行きましょう。)”と話が進むでしょう。ただし、注文する時には、“想”ではなく“要”を使って、“我要一杯咖啡拿铁。(カフェラテを一杯ください。)”となります。「飲みたい」じゃなく、「欲しい」なのです。

上記の会話では、“(我们)去喝一杯吧。”の“我们”は省略することができます。また、日本語で「明日は地理の授業があります。」という場合、主語は「授業」です。中国語だと“明天有地理课。”となり、まるで“明天”が主語のようにみえます。日本語だと「明日」には話題化の助詞であるハが付いているので主語でないことが容易にわかります。実は、中国語では、“我”が省略されているだけで、“我有地理课。”です。それに明日という時間詞がついています。やはり、中国語も pro-drop 言語ですね。ただ、“你说什么?”の場合は、“你”は省略しない場合が多いみたいです。ここに日中の pro-drop に違いがあると思いました。私には、省略の違いを生み出す理由はわかりません。代名詞の省略の状況と有無については、コーパスなどで、中国語と日本語を比較してみるとおもしろいかもかもしれません。

また、“附近有星巴克。”は、場所が主語になる‘存現文’(丸尾, 2010, pp.164-168)あるいは“有”構文(張婧禕・玉岡, 2016; 張婧禕・玉岡, 2018)と呼ばれます。このように場所を主語としているような文は、よく中国語で見られます。ただし、私は、場所が主語である

という立場はとっていません。張婧禕・玉岡(2016)では、場所を主語としているようにみえる存現文は、[TP  $\phi$  [T' [VP [PP N (附近)] [V' V (有) N (一家星巴克)]] T]]という構造であり、主語の省略で‘ゼロ代名詞(empty pro,  $\phi$ )’が存在すると考えています。英語のように it があって、それが省略されているという考え方です。これだと、中国語を英語などヨーロッパ諸語と同じ文構造で説明することができます。

## 5. 中国語は‘省エネ化’で進化した言語だと思います。

英語の文を中国語に翻訳すると、半分くらいのスペースに収まるそうです。中国語は、統語情報の簡素化と漢字を使った概念的な文字によって‘省エネ化’を達成した言語なのではないでしょうか。実際、竹簡や木簡に文字を書くのに、無駄なく簡潔に表現しなくてはならなかったはずで、費用対効果(cost performance, ある施策に使った費用に対して、どれくらいの効果を得られるか)も、‘省エネ化’の理由なのではないでしょうか。その意味で、中国語は無駄を省いた高度に進化した言語なのかもしれません。

簡単な例をみてみましょう。「今日は日曜日です。」という場合に、“今天星期天。”と主語の名詞と目的語の名詞とを組み合わせると言います。英語だと Today is Sunday. で、be 動詞が必要です。中国語の文は、主語に対して述語の部分に名詞がくるので、‘名詞述語文(noun predicates)’といわれます(王亜新, 2011; 王燕, 2016)。日本語では、‘コピュラ文’です(三上, 1953)。中国語では、曜日だけでなく、日付、天気、年齢、出身、値段などでも名詞述語文が使われます。「今日は何曜日ですか。」という疑問文でも“今天星期几?”です。英語だと、疑問詞が文頭に移動して、「What day is today?」という複雑な構造の文になります。また、日本語の「あなたはどこの国の人ですか。」、英語の「Which country are you from?」も、中国語だと“你(是)哪国人?”と、いたってシンプルです。日本語のコピュラ文は限定的にしか使えないので、やはり、日本語や英語と比べて、中国語は非常に省エネ化された言語だと思います。ただし、否定する時には、“不是”と言わなくてはなりません。否定で“是”

が出現するので、もともと“是”が省略されていることがわかります。

また、日本語の比較の文では「彼女は私よりもきれいだ。」、英語では「She is prettier than I am.」です。中国語だと、「A+比+B+形容詞」のかたちで“她比我漂亮。”とシンプルに表現できます。この場合は、Aが“她”で、Bが“我”です。そして、“比”(よりも)となり、“漂亮”(きれい)となります。英語だと、形容詞を比較級(-er)にしますが、その際にprettyを変化させてprettierとします。中国語だと、形容詞の変化はありません。漢字形態素を2つ使って概念的に文を組み立てるだけなので、いたってシンプルです。

私が中国語の省エネ化を痛感したのは、中国語の文構造の合理性です。まず、‘連動文’と呼ばれる文型があります。これは、同一の主語が2つ以上の動作(動詞)を連動して行うことを時間連続で表現した文です(張婧禕・玉岡・王莉莎, 2021)。英語だとand、日本語だと「～て」とかが使われます。中国語では、何も入れずに連続させます。「私は図書館へ行って、本を読みます。」であれば、“我去图书馆看书。”となります。動詞に対する主語は“我”で、時間経過と共に連続して動作(動詞)を続けます。文字数で考えると、日本語だと漢字と平仮名で15文字になりますが、中国語だと漢字7文字で表現できます。木簡に書くのであれば、費用対効果が極めて高いですね。

特に、‘兼語文’(丸尾, 2010; 王志英, 2014; YouTube ゆうきの中国語「中国語の基本文法 26 選」)は中国語の省エネ化に大きく貢献していると思います。これは、“让・叫・请・令・使”の使役文、“被”の受け身文、“送・派・催”などその他の動詞(丸尾, 2010, p.153 に動詞の一覧が挙げられています)の文が、一つの構造で説明できることです。‘兼語文’の考え方だと(YouTube ゆうきの中国語「中国語の基本文法 26 選」より)、SV<sub>1</sub>OV<sub>2</sub>の文が、SV<sub>1</sub>O と、目的語(O)が次の文の主語(S)になり、SV<sub>2</sub>と解釈できるという構造です。たとえば、使役文のSV<sub>1</sub>OV<sub>2</sub>だと、“我让她回家。”(私が彼女を家に帰らせる。)は、SV<sub>1</sub>Oの“我让她(私が彼女にさせる)”とSV<sub>2</sub>の“她回家(彼女が家に帰る)”となります。つまり、“我让她+她回家”

と2つの文として理解できるというわけです。中国語には「が」「に」「を」の格助詞がないので“她”をコピーして2つ続ければ、“我让她”と“她回家”のように2つの文にみえます。

この構造は、能動文の“送”でも同じです。たとえば、「私が彼女を家まで送る。」であれば、“我送她回家。”で、やはりSV<sub>1</sub>Oの“我送她(私が彼女を送る)”とOV<sub>2</sub>の目的語が次の文の主語になり、“她回家(彼女が家に帰る)”となります。やはり、“她”をコピーして2つ続ければ、“我送她+她回家”になります。

さらに受動態も同じように考えられます。たとえば、「彼は会社からクビにされた(彼は会社をクビになった)。という文であれば、“他被公司开除了。”となります。この文も“他被公司(彼が会社からされる)”と“公司开除(会社がクビにする)”の2つの文と考えることができます。そして、やはり初めの文の目的語の“公司(会社)”が次の文の主語になって“公司开除”となります。同様に、“公司”をコピーして2つ続ければ、“他被公司+公司开除”になります。この状況はすでに完了しているので、最後に“了”が付きまします。

以上のように、兼語文では、1つの文の目的語をコピーして2つ並べて解釈することで、2つの文として理解できるのです。これによって、能動文、使役文、受動態が同じように理解できます。非常にわかり易い文構造です。

これを心理言語学の‘文処理(sentence processing)’の観点からみてもみましょう。中国語母語話者は態(voice)を同一の認知プロセスで処理しているのではないかと思われます。主語の後に、能動態を示す“送”，使役態の“让”，受動態の“被”がくるので、この段階で態(voice)を理解することができます。その後に目的語が続き、さらにその動作が続いた場合には、目的語をコピーして2つの文として容易に文全体の意味が理解できます。中国語には格助詞がないので、そのまま2つの文として解釈することができてしまいます。それなら、中国語母語話者は、態をそれほど強く意識しなくても、文の態を理解できてしまうのではないのでしょうか。この文構造の省エネ化は、「認知負荷の省エネ化」に大きく貢献しているのではない

かと思います。

## 6. 時間詞の文中の位置は他の言語と同じなのかなあ。

中国語も英語も SVO 語順だといわれます。それでは、“我明年在大学学习汉语。(私は来年大学で中国語を学びます。)”という文をみてみましょう。中国語では、目的語の“汉语(中国語)”以外は、時間を示す“明年(来年)”，場所を示す“在大学(大学で)”も動詞の前にきています。確かに、中国語は SVO 語順ではありますが、目的語(O)以外は動詞の前にきます。これだと、むしろ日本語に近い語順といえそうです。英語だと、I will study Chinese at a university next year.になります。つまり、主語以外の目的語の Chinese, 場所の at a university, 時間の next year はすべて動詞の後にくるのです。すべての‘構成素(constituent, 文の階層構造の単位として機能する語あるいは語のまとまりのこと)’を含んだ語順を考えると、英語は、主語の後に動詞と目的語がきて、その後他の構成素が続きます。一方、中国語は、同じ SVO 語順でも、目的語以外の構成素の位置が英語とは大きく異なります。また、別の例だと、The park is located between the library and the university. の前置詞句は“那个公园在图书馆和大学中间。”では後置詞句となり、日本語の「その公園は図書館と大学の間にあります。」と語順が同じになります。このように、SVO 語順だといわれる中国語ですが、英語とはかなり異なる語順がみられます。

語順を考えるにあたり、‘時間詞あるいは時間名詞’の位置について考えてみましょう。中国語を学んで特に興味を引いたのは、時制です。「中国語には過去・現在・未来といったテンス(時制)がありません」(丸尾, 2010, p.47)。さらに、「中国語の動詞には、日本語にみられるような「活用」や英語にみられるような「変化」というものはありません。従って、過去・現在・未来いずれの場合でも同じ形で表されます」(丸尾, 2010, p.14)。考えてみれば、英語であれば、yesterday と言っているのに、さらに過去であることを動詞で示します。これは、情報が冗長に感じます。

英語では、逆に、動詞が過去を示しますので、yesterday はなくて

も過去であることがわかります。そのため yesterday は付属品みたいなものです。さらに、ドイツ語やフランス語などでは、人称と時制で動詞が大きく異なり、現在形の変化だけでも覚えるのが大変です。これに過去形、未来形、完了形が加わって、動詞の変化だけで1冊の本になってしまいます。中国語では、“昨天”は時間を示すのに欠かせない要素です。“昨天”で文が過去を示していることがわかりますので、もうこれ以上動詞の活用などで過去を示す必要はないということです。やはり中国語は省エネですね。

さらに、ドイツ語の名詞には、男性、中性、女性の3つの文法的な性があり(フランス語では男性と女性の2つ)、性によって冠詞や形容詞も変化します。ヨーロッパ言語の学習のほとんどの時間を、こうした、活用や性の習得に費やさなくてはなりません。なんのためにこのような「お飾り」がいっぱいあるのだろうか、ドイツ語とフランス語を学んで思いました。日本語は少しシンプルです。「昨日」と言っても、「夕 -ta」を付けて二重に過去を示します。ただし、日本語の動詞の活用はかなり複雑です。このような活用などはなくても意味が通じますので、無駄だなあ…と感じます。やはり、中国語は長い歴史のなかで‘省エネ化’を達成した非常に進化した言語なのかもしれませんね。

さて、‘時制(tense)’とはなんでしょう。これは、言語的な時間を示す文法的なカテゴリーです。多くの言語では、時制を、動詞か助動詞で示します。いわゆる、英語でいえば、study が現在形で、studied が過去形です。中国語では、“昨天(昨日)”，“今天(今日)”，“明天(明日)”など、時間詞(あるいは時間名詞)があります。中国語の時間詞のふるまいは副詞とよく似ているので、副詞と考える言語学者もいます。名詞であるか副詞であるかの議論はここではいったん置いておきます。ここで重要なのは、‘時制(tense)’と‘時間(time)’とが異なる概念だということです。時制はあくまで文法的範疇であり、ヨーロッパ諸語では、動詞か助動詞の変化で時制を示しますが、中国語では主に時間詞で示します。その意味で、時間を示さない言語はないのです。

それでは、時間とは、どのような概念なのでしょう。Clancy(1989)

によると、韓国語を母語とする幼児の疑問詞の習得は、「なに(物)=どこ(空間)<だれ(人)<どう(様態)=なぜ(理由)<いつ(時間)」の順番で進むといわれています。時間を問う疑問詞の「いつ」が最後で、5歳くらいまで発話されないそうです。実生活を考えると、「(それ)なに」と聞いてから、「(それ)どこ」と問うでしょう。そして、少し遅れて「だれ」となります。「なに」「どこ」「だれ」という情報がないのに、「どう」とか「なぜ」とか聞くのは難しいですね。最後に、全体を総括する「いつ」と聞くのが自然な流れのようです。そうすると、時間は、全体をまとめる総括概念と考えることができそうです。

幼児の言語発達の流れについては、日本語の絵本に出現する疑問詞の頻度を調べた研究があります(Ito, Tamaoka & Mansbridge, 2020)。345冊の絵本を対象に、読み聞かせの対象年齢別に疑問詞がでてくる絵本数を数えました。そして、疑問詞の出現数を対象年齢別に集計して、‘分類木分析(classification tree analysis; ある研究対象の質的変数を、複数の質的あるいは量的な変数群で予測する多変量解析)’を行いました。「いつ」の頻度は少なく、5歳対象の絵本で若干出現します。Clancy(1989)の示した幼児の発話における疑問詞の出現順序と Ito et al.(2020)の疑問詞が出現する絵本の冊数が類似した傾向であることがわかりました。

さて、中国語の時間詞は、主語の前後にみられます。出現数の結果として、そのような位置に生起するのだということがわかります。しかし、文という単位で考えると、時間詞は、まずは主語の後が‘定位置’と考える(平山, 2017; 兼本, 2018; 鈴木, 2014 など)ほうが、統語的にすっきりと説明がつきそうです。実は、英語も日本語も統語構造上では、主語のすぐ下(あるいはすぐ後)に時制(Tense, T')がきます。日本語では、過去を示す「タ-ta」は動詞の後に付き、文の最後にきます。ところが、生成文法(長谷川, 1999; 岸本, 2009; 三原, 1994: 三原・平岩, 2006; 渡辺, 2009 など)では、日本語の過去の時制(T)は、主語の下にきます。つまり、文構造上の位置は[TP NP-nom [T<sub>i</sub> [vp...]] T(-ta)]となります。中国語も時間詞が主語の後にくるとすれば、時制の位置が英語や日本語と同じになります([TP NP (主語) [T<sub>i</sub> (時間詞)

[vp...]]])。生成文法では、主語はもともと動詞句内にあつたと考えられ、日本語ではそれが心理言語学の実験で実証されています(Koizumi & Tamaoka, 2010)。そのため、時制は動詞句全体(あるいは文全体)を統率(government)すると考えられます。これが、文の最上位が TP(tense phrase)である理由です。

すでに説明したように、中国語の文では、yesterday がなくては時間がわかりません。ここで、ヨーロッパ諸語や日本語のように、主語の後が時間詞の定位置であるとしましょう。その上で、時間詞が主語の前にくる理由を考えましょう。“作业(你)做完了吗? (宿題はもう終えましたか。)”に対して、その答えは“汉语作业(我)做完了。(中国語の宿題は終わりました。)”となります。ここでは、“作业(宿題)”が文頭に出ていますが、これは主語ではなく、目的語が‘話題化(topicalization)’によって文頭にきたのです。もちろん、日本語でも中国語でも主語の「あなた」「你」, 「私」「我」が省略されます。主語を省略してしまうと、時間詞が主語の前か後かはわからなくなりますので、時間詞の位置はもう議論の対象ではなくなります。また、“日本电影(你)最喜欢什么? (日本の映画であなたはなにが一番好きですか?)”の文だと、“日本电影(日本の映画)”の目的語が文頭にきています。これは、トピック・コメント構造(topic comment structure)と呼ばれ、特に中国語で好まれる文構造だといわれています(Chao, 2011; Li & Thompson, 1981; Shi, 2000; Tamaoka & Zhang, 2022; Xu & Langendoen, 1985 など)。

さらに具体的な例をみてみましょう。たとえば、“你什么时候做了核酸? (あなたはいつ PCR 検査を受けましたか?)”という問いがあったとします。すると、定位置で答えるのであれば、“我昨天下午做了核酸。(私は昨日の午後に PCR 検査を受けました。)”です。これは、統語構造上では、T'の spec の位置になります。いわゆる、英語や日本語と同じ位置に時間を示す要素(時制)がくるのです。一方、「いつ」と聞かれているので、“昨天下午我做了核酸。”という場合には、時間詞が主語の前ってきているので、統語的には TP の上の TopicP(topic phrase)の spec の位置であると説明されます。これは、日本語でも同じで、「昨日の午後(私は)PCR検査を受けました。」



となり、やはり TopicP の spec の位置になり、日中で同じトピック・コメント構造だと考えられます。

話題化によるトピック・コメント構造についてももう少し詳しく考えてみましょう。友達に日本映画を見たいのだけど、今度、見ないかと聞いたとします。ところが、その友達は、“昨天我们看了一部日本电影。(昨日私たちは日本の映画を見ました。)”と答えました。“昨天(昨日)”が話題(topic)として文頭へ、その後に昨日起こった内容(comment)が続きます。特に、中国語文法では、“昨天”の品詞を名詞とすることが多いので、話題化がうまく当てはまります。鈴木(2014)が指摘しているように、トピック・コメント構造は、品詞を基にした文の基本構造にしたがった語順ではありません。主語の後の定位置の“我们昨天看了…”から、話題化によって焦点になる時間詞が文頭にきたことによる語順の変更です。これで、時間詞は、TP(あるいはIP)の上に来て、TopicP となり、複雑な構造を作ると考えることができます。トピック・コメント構造は、生成文法では移動として複雑な構造で説明されます。しかし、文頭への移動が文構造を複雑にして文処理を難しくしているとは限らないと思います。

時間が文全体を総括する概念(Ito, et al., 2020)であるとするれば、時間詞が話題化によって文頭に来て(平山, 2017; 奥水・島田, 2009), それ以降にその内容が続くと考えることができます。鈴木(2014)も時間詞は「基本的に主語 S の直後か、あるいは S の前に置かれる。」(p.18)と述べており、基本語順としては、主語の後、話題化語順としては、主語の前であることを示唆しています。さらに、鈴木(2014)は、「単に品詞の違いが語順を決定しているのではなく、何に焦点を当てて表現するかということが、副詞とその他の品詞の順序に影響しているように思われる。」(p.21)と述べており、話題化による焦点が語順に影響することについて言及しています。丸尾(2010)も、ある時間の流れのなかにある一点の「時点」を表す時間詞は主語の前に置かれると述べており、話題化の可能性を示しています。

このように、現象としては、時間詞は主語の前後に出現します。しかし、統語構造では、時間詞の定位置は主語の後(T')で、話題化で文全体を総括する概念として主語の前に位置することになり、文

構造では TP の上に来て TopicP となり、より複雑になると考えられます。通常、文構造が複雑になればなるほど処理負荷が大きくなります。しかし、トピック・コメント構造については、話題化で文のテーマが示されると、その後どのような内容が続くかが容易に予測できます。そのため、私は、トピック・コメント構造は、意味的・語用的処理を含んでおり、効率よく理解できる語順をコミュニケーションの流れのなかで作っていると思います。そのため、文処理の負荷は話題化によって軽減されるのではないかと考えています。あるいは、樹形図で描かれる話題化の統語構造は便宜上の記述であり、認知処理の負荷を示すものではないと考えることもできそうです。効率的な文処理という意味でも、中国語は‘省エネ化’を達成した言語なのかもしれません。

## 7. 中国語を学ぶと中国語母語話者のような時間詞の位置を好むようになるのかな。

語順は、ふつう、定位置が文中で最も好まれ、文が速く処理されるといわれています(日本語の語順の例では、小泉・玉岡, 2006; Tamaoka, Sakai, Kawahara, Miyaoka, Lim & Koizumi, 2005; Tamaoka, Asano, Miyaoka & Yokosawa, 2014; Mansbridge & Tamaoka, 2019; Tamaoka, Ito & Mansbridge, 2022 など)。しかし、定位置が常に好まれるかという点、そうでもないようです。中国語の時間詞は主語の前後に現れますが、定位置は主語の後で動詞の前(T'の spec)だと想定されます。しかし、中国語では、トピック・コメント構造が頻繁にみられ、語順を決める重要な要因だといわれています(Chao, 2011; Li & Thompson, 1981; Shi, 2000; 鈴木, 2014; Tamaoka & Zhang, 2022; Xu & Langendoen, 1985 など)。それなら、主語の前のほうが定位置の主語の後よりも好まれるかもしれません。

また、Chao(2011)によると、「Other things being equal, there is in Chinese a slight preference for time to come before place.(他のことがすべて同じなら、中国語では時間は場所の前にくるほうがやや好まれる。)」(p.124)と述べています。そのため、時間情報は場所情報よりも前に置かれるようです。しかし、時間詞が主語の後を定位置(T'の

spec)とするのであれば、場所の句の前に置かれることが必須になります。それだと、Chao(2010)のいう「a slight preference(やや好まれる)」という程度では、主語の後が時間詞の定位置とはいえないでしょう。

そこで、3つの語順の文を準備して調査をしました(Tamaoka & Zhang, 2022)。それらは、たとえば(1)主語の前の“昨天晚上爸爸在家看电影了。(父は昨夜家で映画を見ました。)", (2)主語の後の“爸爸昨天晚上在家看电影了。”, (3)場所介詞句(前置詞句)の後の“爸爸在家昨天晚上看电影了。”です。12文を基に、語順の違う3種類の文(合計36文)を作成して、方略的ランダム化でこれらの文を配置した質問紙を作成して、中国語母語話者38名にオンライン調査で容認度を5段階(-2から+2までの変数)で評価してもらいました。その結果、主語の前( $M=0.89$ ), 主語の後( $M=0.68$ ), 場所介詞句の後( $M=-1.40$ )となりました。場所介詞句の後の容認度は-2.00に近く、中国語母語話者は、場所の後に時間を持ってくることは、誤りだと判断するようです。やはり、時間詞は少なくとも場所の前に位置しなくてはならないことがわかります。また、主語の前の話題化の位置が、主語の後の定位置よりもやや強めに容認されることも示されました。

同様に、日本語の12文を基に語順の違う3種類の文(合計36文)を作成して、日本語母語話者149名にも同じ調査を実施しました。その結果、主語の前( $M=1.57$ ), 主語の後( $M=1.38$ ), 場所の後( $M=0.08$ )となっています。やはり、主語の前が、主語の後よりも若干好まれるようです。ただ、日本語母語話者は、場所の後に時間を持ってきても、容認度はマイナスにはならず、「誤り」ではなく、容認できる程度だと判断しています。日本語の場合は、時制を文の最後で示しますので(文構造では主語の下のTのspec), 「昨日」などを場所の後に置いて、容認されるのだと思います。

Tamaoka & Zhang(2022)は、さらに日本人中国語学習者149名を対象に、中国語での時間詞の位置の好みを調べました。これらの学生は、中国語を15回学んでおり、初級レベルに相当します。Tamaoka & Zhang(2022)は、これら149名に中国語能力テストを実施してい

ます。このテストは7つの部分から構成されています。それらは、漢字提示による意味理解(10点), ピンイン提示による漢字転写(10点), 量詞理解(10点), パターン問題(10点), 文法知識(10点), 日本語から中国語に訳す問題(5点), 会話理解(5点)です。このテストは、60点満点です(全体は,  $N=149$ ,  $M=47.75$ ,  $SD=9.25$ )。ちなみに、このテストのクロンバックの信頼度係数(Cronbach's reliability coefficient)は、非常に高く  $\alpha=0.92$  です。Tamaoka & Zhang(2022)は、このテストの得点を基に、日本人中国語学習者149名を、上位群( $n=51$ ,  $M=56.35$ ,  $SD=1.87$ ), 中位群( $n=52$ ,  $M=49.44$ ,  $SD=2.14$ ), 下位群( $n=46$ ,  $M=36.30$ ,  $SD=7.28$ )に分けました。そして、時間詞の位置の選択頻度を調べました。結果は図2のようになりました。なお、図2では時間名詞としています。

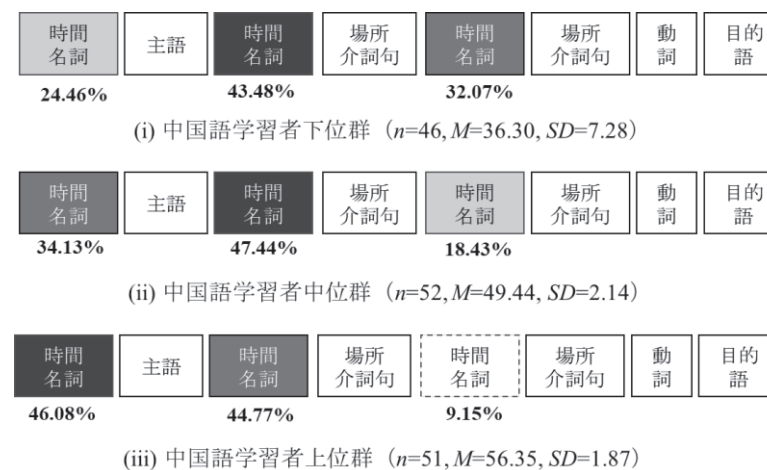


図2 日本人中国語学習者の中国語能力別にみた時間詞の位置

図2をみると、日本人中国語学習者の中国語能力が向上すると共に、中国語母語話者が好むような時間詞の位置へと変化していくことがわかります。つまり、時間詞を文のどの位置に置くかが、初級のかかなり早い段階で日本人中国語学習者に知覚されるようになるということです。まず、下位群は場所の後に時間詞を置くことを容認

しています。これは、日本語の影響ではないかと思われる。中位群では、場所介詞句の後に時間詞を置くことはあまり選択されなくなります。その分、主語の前後に時間詞を置くようになります。それが上位群になると、中国語母語話者のように、主語の後よりも主語の前に時間詞を置くことが若干多くなります。さらに、場所介詞句の後に時間を持ってくることは極めて少なくなります。これは、中国語母語話者と類似した時間詞の位置の好みを反映しているようにみえます。

日本人(あるいは誰でも)中国語学習者は、初級レベルから時間について非常に敏感なのではないかと思われる。そして、時間が文を総括する概念として円滑に機能するように、話題化によって主語の前に時間詞を置いて、トピック・コメント構造を作っているのではないのでしょうか。その結果、時間詞の後にくる主語以下の文の処理が効率よく進むのではないかと予想されます。

## 8. 中国の‘ネット社会’は日常生活に必要な表現を大きく変えてしまったようです。

私が初めて中国を訪問したのは1991年のことです。当時はまだ、外国人専用の兌換券と呼ばれるお札がありました。その後、数年に1回くらいの頻度で中国を訪問しました。コロナ禍前の数年間は、1年に3回くらい中国を訪問していました。そのため、過去30年間の中国の社会の変化を肌で感じてきました。とりわけ、ここ10年間の変化は著しく、社会が一気にインターネットを活用するようになったと痛感しています。現在では、中国は日本よりもずっと高度な‘ネット社会’になっています。

中国語を学び始めてしばらくして思ったのは、10年前と比べて必要とされる語彙や表現が大きく変わったことです。こうしたニーズに応えるために、張婧禕・玉岡・王莉莎(2021)が『ネット時代の中国語』(ひつじ書房)を出版しました。図3はその教科書の表紙です。ここでその内容を少し紹介しながら、新しい語彙や表現について触れたいと思います。



図3 中国語の教科書

まず、2000年に入って、中国の物流は驚くべきスピードで成長しました。若者ばかりでなくあらゆる年齢層に、インターネットによるショッピングが広がりました。中国のインターネットでの買い物は日本の比ではありません。2019年のデータによると、中国では年間635億個の宅配が行われたそうです。1日に1億740万個の荷物が処理されたことになります。ネットで服を買う場合は、“我在网上买衣服。(私はネットで服を買う。)”と言います。日本語では、英語をそのままカタカナ表記して「インターネットショッピング」と言いますが、中国語では

“网上购物”あるいは省略して“网购”と言います。中国語では、アルファベット系の外来語は、発音よりも意味を重視して翻訳されます。中国の人気通販は“淘宝(Taobao)”です。そのため、“淘宝上有这件T恤。(タオバオにこのTシャツがあります。)”という表現が使われます。こうしたネットショッピング関連の語彙は、10年前にはほとんど使われていなかったと思います。

ホテルにチェックインするにあたり、Wi-Fiが使えるかどうかを聞くのがふつうになりました。“这里有Wi-Fi吗?(ここにはWi-Fiがありますか=ここではWi-Fiが使えますか?)”と聞きます。そうすると“有。(あります=使えます。)”という答えが返ってくるでしょう。日本語では「使えますか」と聞くのですが、中国語では、“有”を使うことが多いようです。そうすると、“密码是多少?(パスワードはなんですか?)”と聞くことになります。パスワードは中国語では、“密码”です。“密码是XXXXX。(パスワードはXXXXXです。)”という表現になります。また、Wi-Fiがちゃんと

繋がらない場合は、“这儿的 Wi-Fi 信号不好。(この Wi-Fi の接続はよくないです。)”という表現になります。このようなコミュニケーションは、20 年前にはスパイ映画でしか聞かれなかったのではないのでしょうか。

中国人とコミュニケーションをとるには、WeChat を使います。私達は WeChat と呼んでいますが、中国語では、“微信”です。“你有微信吗?(あなたは WeChat を使っていますか?)”と聞かれます。WeChat を使っていれば、“有。(使っています。)”“(我)能加你(一)下微信吗?(私はあなたを WeChat に加えてもいいですか。)”ということになります。日本語では「使う」で表現すると思いますが、やはり中国語では“有”を使うようです。こうして WeChat で連絡がとれるようになります。私は、2021 年 9 月から湖南大学の教授になりましたが、所属部局の教員間の連絡、ファイルの転送、注意事項の掲示などはすべて WeChat で行われます。

WeChat はコミュニケーションの手段だけではなく、支払いにも使えます。その場合は、“用手机支付。(スマホで支払います。)”とか、WeChat に特定すれば“用微信支付。(WeChat で支払います。)”と言います。その他、タクシーを呼んで、目的地へ行き、支払いも携帯で行えます。高鉄の予約も携帯です。公園への入場および支払いも、携帯です。最近では、自転車のレンタルも中国全土に広がりました。携帯で“共享单车(レンタル自転車)”を借りて、支払うこともできます。

最近では、レストランに行くと、携帯で料理を注文できます。まず、レストランのテーブルに QR コードが付いたシールが貼ってあります。それを携帯で読み取ると、メニューを見ることができます。QR コードは英語の「quick response code」のことで、日本語でも「QR コード」といいます。「二次元バーコード」という日本語を使う場合もありますが、ほとんど使わないようです。中国語では、“二维码”といわれます。「二次元の番号」というわけです。注文したいメニューをタッチすると、なにも言わなくても注文できます。そして料理が運ばれてくるわけです。支払いも、“支付宝(アリペイ)”または“微信支付(WeChat ペイ)”で行うことができます。こうし

て、中国では、屋台であっても現金を使うことがほとんどなくなりました。みんなが現金を使わなくなったので、お釣りを用意していません。お釣りがないので、さらに現金が使われなくなります。このおかげで、現金を盗まれるということがなくなったようです。また、カメラも街中のいたるところに設置してあるので、窃盗も少なくなりました。

ここで困ったことがあります。それは、かつては話し言葉で日常生活を送っていましたが、書き言葉を理解しなくては生活ができなくなったことです。もちろん、中国の友達とは、中国語で話をしたいものです。しかし、レストランからタクシーまで、携帯でできるということは、生活上のニーズが話し言葉から書き言葉へと移っているということです。もちろん、中国語は漢字で書かれますので、日本人にとって書き言葉によるコミュニケーションはむしろ大歓迎です。

最近の中国の“麦当劳(マクドナルド)”では、入口付近に大きなタッチパネルが準備されています。そのため、中国語を話さなくても、中国語が読めるあるいは写真で推測ができれば、注文ができます。その際、マクドナルド内で食べるか(“堂吃”), 持ち帰るか(“外带”), をまず選びます。いずれかをタッチしてメニューに進みます。メニューには写真があるので、だいたいわかりますが、ハンバーガーでレタスを抜きたいとかの選択は文字で示されます。サイズ、ハンバーガーの種類、飲み物、ソースの選択などをちゃんと正しく選択するには、中国語が読めなくては注文するのは結構難しいです。注文を確認する際には、“查看我的订单。”をタッチすれば、注文内容を示した“我的堂食订单”の画面がでます。ここには写真がないので、書かれた文字を理解しなくてはなりません。確認画面では、注文を削除したり変更したりもできます。そして、“结账(お会計)”をクリックすれば終了です。支払いも終わっているのです。列に並んで注文を受け取ります。こうなると、中国語が読めることが、日常生活で必須になってきます。

このように中国の‘ネット社会’は、日常生活に必要な語彙と表現を大きく変えました。また、話し言葉ばかりでなく、書き言葉も

理解しなくてはレストラン、タクシー、レンタル自転車、高鉄の予約などもできません。張婧禕・玉岡・王莉莎(2021)の『ネット時代の中国語』はこうしたニーズに応えようとした教科書です。私達は、今後さらに、こうした中国のネット社会に必要な語彙と表現をたくさん盛り込んだ教科書の作成を企画しています。最後に、ちょっとだけ私達が作った中国語学習教科書の宣伝でした。

#### 参考文献

- 長谷川信子 1999.『生成日本語学入門』東京:大修館書店
- 兼本敏 2018.初級中国語の語順理解に関する一考察,『沖縄国際大学総合学術研究紀要』20(2):25-38頁
- 興水優・島田亜実 2009.『中国語わかる文法』東京:大修館書店
- 岸本秀樹 2009.『ベーシック生成文法』東京:ひつじ書房
- 丸尾誠 2010.『基礎から発展までよくわかる中国語文法』東京:アスク出版
- 三原健一 1994.『日本語の統語構造—生成文法理論とその応用』東京:松柏社
- 三原健一・平岩健 2006.『新日本語の統語構造—ミニマリストプログラムとその応用』東京:松柏社
- 三上章 1953.『現代語法序説・シンタクスの試み』東京:刀江出版
- 平山邦彦 2017.中国語語順体系に貫かれた構成原則について—基本語順の設定とその核心的 SVO の位置づけを中心に—,『拓殖大学語学研究』137:57-100頁
- 小泉政利・玉岡賀津雄 2006.文解析実験による日本語副詞類の基本語順の判定,『認知科学』13(3):392-403頁
- 鈴木進一 2014.中国語の語順指導について—標準的語順のシステム化—,『神奈川大学心理・教育研究論集』36:13-21頁
- 渡辺明 2009.『生成文法』東京:東京大学出版会.
- 王亜新 2011.日本語と中国語の名詞述語文に見られる共通点と相違点 “誰は他(誰が彼か)?”等の誤用分析を通じて—,『東洋大学人間科学総合研究所紀要』13:79-92頁
- 王燕 2016.日中対照の立場からみた日本語の名詞述語文,『北陸大学紀要』40:124-136頁

- 王志英 2014.中国語の“給”と“～給”について,『沖縄大学人文学部紀要』16(2):15-27頁
- 張婧禕・玉岡賀津雄 2016.「在」および「有」構文による空間表現の統語構造,『ことばの科学』30:21-37頁
- 張婧禕・玉岡賀津雄 2018.中国語母語話者による“在”と“有”構文における定・不定の認知,『日中言語対照研究論集』20:147-163頁
- 張婧禕 2018.意志を表すモダリティ表現の「意向形+」と思う“要”/「つもりだ」「打算」/「予定だ」「准备」に関する中日対照研究,『愛知工業大学研究報告』53:1-7頁
- 張婧禕・玉岡賀津雄・王莉莎 2021.『ネット時代の中国語』東京:ひつじ書房
- Chao, Yuen Ren. 2011. *A Grammar of Spoken Chinese*. Beijing: The Commercial Press.
- Clancy, Patricia M. 1989. Form and function in the acquisition of Korean *wh*-questions. *Journal of Child Language*, 16(2), 323-347.
- Ito, Natsue, Katsuo Tamaoka, Michael P. Mansbridge. 2020. A Picture-Book Based Corpus Study on the Acquisition of *wh*-words in Japanese. *Glottology: International Journal of Theoretical Linguistics*, 10(1-2), 85-102.
- Koizumi, Masatoshi & Katsuo Tamaoka. 2010. Psycholinguistic evidence for the VP-internal subject position in Japanese. *Linguistic Inquiry*, 41, 663-680.
- Lonsdale, Chris. 2006. *The third ear: You can learn any language*. Hong Kong: Third Ear Publishing.
- Lenneberg, Eric H. 1967. *Biological foundations of language*. New York: John Wiley and Sons.
- Li, Charles N. & Sandra A. Thompson. 1977. The acquisition of tone in Mandarin-speaking children. *Journal of Child Language*, 4(2), 185-199.
- Li, Charles N. & Sandra A. Thompson. 1981. *Mandarin Chinese: A Functional Reference Grammar*. Berkeley, CA: University of California Press.
- Shi, Dingxu. 2000. Topic and topic-comment constructions in Mandarin Chinese. *Language*, 76, 383-408.
- Tamaoka, Katsuo, Hiromu Sakai, Jun'ichiro Kawahara, Yayoi Miyaoka, Hyunjung Lim & Masatoshi Koizumi. 2005. Priority information used for the

- processing of Japanese sentences: Thematic roles, case particles or grammatical functions? *Journal of Psycholinguistic Research*, 34(3), 281-332.
- Tamaoka, Katsuo, Michiko Asano, Yayoi Miyaoka & Kazuhiko Yokosawa. 2014. Pre- and post-head processing for single-and double-scrambled sentences of a head-final language as measured by the eye tracking method. *Journal of Psycholinguistic Research*, 43, 167-185.
- Tamaoka, Katsuo & Michael P. Mansbridge. 2019. An Eye-tracking Investigation of Pre-head and Head-driven Processing for Scrambled Japanese Sentences. *Gengo Kenkyu (言語研究)*, 155, 35-63
- Tamaoka, Katsuo & Jingyi Zhang. 2022. The Effect of Chinese Proficiency on Determining Temporal Adverb Position by Native Japanese Speakers Learning Chinese. *Frontiers in Psychology*, 12, 1-13.
- Tamaoka, Katsuo, Takane Ito & Michael P. Mansbridge. 2022. Parallelism between sentence structure and nominal phrases in Japanese: Evidence from scrambled instrumental and locative adverbial phrases. *Journal of Psycholinguistic Research*, 51, 501-519.
- Xu, Liejiong & Donald Terence Langendoen. 1985. Topic structures in Chinese. *Language*, 61, 1-27.

#### [YouTube]

ゆうきの中国語「中国語の基本文法 26 選 | 基礎を固める初級の内容を紹介」<https://www.youtube.com/watch?v=LkZr9enKaS4>

注: YouTube の「ゆうきの中国語」では, さまざまな中国語の文法の説明がアップされています。とてもわかり易い説明で, 非常に参考になります。

Little Fox, Tones Song (声調歌), Chinese Pinyin Song

<https://www.youtube.com/watch?v=ORpsNpxmfOc>

Little Fox, bpmf Song (bpmf 歌), Chinese Pinyin Song

<https://www.youtube.com/watch?v=EReU1BKtAXo>

注: Little Fox は, 子供のためのさまざまな中国語の発音の歌を YouTube にアップしています。

#### [Software Application]

外国語学習アプリ Duolingo

<https://ja.duolingo.com/>

my Tuner Radio

<https://mytuner-radio.com/>